

C
A
S
T

二階堂	ガラ子	二十二歳。大学生。	魔法使い
霧島	セル子	二十二歳。大学生。	魔法は使えない
三岳	ノワ	十九歳。大学生。	魔法使いの後輩
佐藤	グリ	二十六歳。大学院生。	魔法使いの先輩
ルナ・スペキュラム・モリス	年齢不詳。仮面の教授。	魔法使いの師匠	：
魔界へと誘うリゲル	惡魔	：	：

※魔法：「引き金」となる物品を持ち、魔力を持つた言葉を唱えることで、力を発動する。

0

学校の教室。遮蔽された窓。無造作に置かれた私物、食品。長年の占領の跡。ホワイトボードに何語かわかない文字と式の羅列、そして落書き。怪しげなランプ。毒々しい液体。絶えず動き続ける金属の置物。魔本。光を反射するオーナメント。壁に貼られた呪符。床に敷かれた魔法陣。

5人の魔法使い。教室で各々にくつろいでいる。
用事があるのか、一人、また一人と教室から出ていく。
ガラ子がだけ残る。本を開き、紙とペンで魔術の下準備をしている。
集中が途切れる。姿勢を正し、深呼吸をして、胸に手を当て

ガラ子 ノイト・エッグス・フレス・オッド・エンクレグ

私
二階堂カネ子は世に比類なき魔法使いた
血より与えられた魔力と、弛まない研鑽、行使できない魔力はない
そして、魔法は万能の術で、全ての可能性である
ならば、私に出来ない事はない

沈默

がラ子 大丈夫。魔法なんて簡単だ

暗転

1 ━ 第1話 ━ 「テストなんて簡単だ。」

教室。遠くでチャイムの音がなる。ガラ子はそのまま机にいる。教室のドアが勢い良く開き、セル子、勢い良く入室。

4

35

30

29

20

15

1

5

セル子 大変だ。ガラ子。私、どうやらテストがやばいぞ。このままじゃ退学だ。
ガラ子 おはよう、セル子。今ちょっと忙しいから後にしてくれない?
セル子 それは出来ないな
ガラ子 大変ね。具体的に何するの?
セル子 教授に土下座をかましに行く
セル子 私はこのあと直ぐ、残りの学生生活をかけた最後の特攻に行かなければいけない
ガラ子 大変ね。具体的に何するの?
セル子 教授に土下座をかましに行く
セル子 私のようなら若き乙女が突然本気の土下座をすれば、
流石に教授といえども、動搖するだろう。そのスキを突く
ガラ子 莫迦ね。私達は魔法使いでしょ
セル子 相手の情に訴えるよりももつといい方法があるんじやない
ガラ子 だけど、私は魔法が使えないと
セル子 その必要はない。それに忙しいんだろ
ガラ子 そのくらい簡単。貴方と違つて優秀なの
セル子 だとしても必要ない。ガラ子、さては私の土下座を甘く見てるな
セル子 子供の頃から何度も見てれば、甘くも見えるわよ
ガラ子 というか、それなら貴方、何しに来たわけ
セル子 いや、いざとなつたときのために、最後のお別れを言ひに来た
これで退学になろうものなら、私以外に友達のいないガラ子に顔向けてできない
ガラ子 失礼ね。貴方より友達多いわよ
セル子 では、さらば。愛してるよー。ガラ子

セル子、勢い良く教室から出していく
ノワ、セル子と入れ違いに、ぶつかりそうに成りながらも入室

ノワ うわわっ！
ガラ子 まったく、莫迦なんだから
あ、おはよう、ノワちゃん
ノワ おはようございます。ガラ子先輩
ガラ子 セル子さんはあんなに慌ててどうされたんですか？
試験で悪い点とつて、教授に土下座しに行くそうよ
ノワ なるほど、魔法の使えない方は大変なんですね
ガラ子 いや、そもそも真面目に勉強すれば良いだけの話じやない？
ノワ そうですか？魔法でチョイチョイすれば余裕じやないです
あ、もしかして先輩はちゃんと勉強なさるんですか？
ガラ子 まあね
ガラ子 流石です。偉大です。グレートですよ先輩
ノワ 魔法も、勉強もおできになるなんて、尊敬に値します
ああ、そんな先輩のお力が私に1%でも、流れ込んで下されば幸いなのですがね
とおもつてなりません
あはは：ありがとね：

教室のドアが勢い良く開き、セル子、勢い良く入室

セル子 なんとかなったよ。追試だつてさ

ガラ子 あら、良かつたわね。なら早速勉強なさい

セル子 無理だね。さっぱりわからない

ガラ子 あら、残念、じやあさようなら

セル子 お世話になりました

セル子 まつてよ。友達でしょ！ねえねえねえ！

ガラ子 わかった。じやあ、勉強に付き合つてあげるわよ。で、いつなの？テストは？

セル子 三十分後だつて

沈黙

ノワ それはもう無理つてことなんじやないんですか？

セル子 違う。私が「試験の本番は超体調悪かつたんすよ」言つたんだよ

ガラ子 そしたら「今日は特別に受けさせてやるが、公平を帰すために今すぐだ」だつてさ

ガラ子 なにが「私の土下座を甘くみるな」よ

セル子 結局誤魔化そうとした挙句に墓穴掘つてんじやない

セル子 ああ、まさかこんなことになるとは…。

セル子 …でも、こうなつた以上、今度こそ、本当に使うしかないんじゃないかな、魔法

ガラ子 誰が？

セル子 ガラ子

ガラ子 はいはい、結局そななるんですね。良いですよ。わかりましたよ

セル子 使いますよ。使えば良いんでしょ。簡単だもんね。魔法なんて超簡単

ガラ子 はいじやあ、そこに正座して

セル子、魔法陣の中央に正座

沈黙

ガラ子 そういえばセル子、あなた大学入る時、私に大見得切つてたわよね

セル子 覚えてないなー

ガラ子 「高校では頼りっぱだつたけど、

セル子 大学ではガラ子に頼らない！勉強も魔法も自力でがんばる」つて

セル子 そんなこと言つてたつけ？

ガラ子 絶対言つてた。私記憶力も良いの

セル子 セル子

ガラ子 なんだ、案外格好いいとこあるじやんつて思つてたんだけど

結局こうなつたか

沈黙

125

120

115

110

105

100

95

90

85

ガラ子 でも、私は全然、頼られるの、嫌じやないから

それが人より魔法が使える私の義務だと思ってるから

ガラ子
教科書の内容、無理やり頭にぶち込むよ

セル子 わかつた

カニ子 即席だから せんとイノリシしてね

思の強さが

ガラ子、セル子の額に触れ

ガラ子　白い紙。赤い線。黒い指。赤い円。

ステット・ジー・テグ・レドロ・ネル・エンクラグ

行徳市立図書館

沉默

方の子あれ失敗した

ごめんセル子、もう一回やる

二、や、い
よ

これでわかった

正氣の、この事に對する態度は三つある。第一は、大丈夫。なんとかなる、今までござる。

魔法がなくたつて私は大丈夫

分部

ガラ子 …で、どうするの？これから3人で楽しく、お別れ会でもする？
セル子 いや、そうじゃないでしょ。魔法じゃなくていいからさ、なんか考えない？
ノワ 頭も良いんでしょ？

あー、でももう二十分しかありませんよ、なにもできなくないですか？

セル子 あーまずいまずいまずいまずいまずい、どうしようどうしよう。焦つてきた

政治のミソガ熱ハ是、開美、アリ、熱ハ是、ハ至

グリ
おはようみんな！おお！セル子どうしたんだ？テンパつてるな
ノワ
セル子さん学校やめるそうです

グリ そうか、でもお前、魔法使えないからな、俺達は痛くも痒くもないな！
セル子 ちょっと、グリさんホントに茶化さないでください

ガラ子 普通に、誤っちゃえば良いんじやないの？

グリ おつ、追試かなんかか？俺が相談にのつてやるよ
セル子 4回留年してるとグリさん黙つてください

グリ

セル子 そんな俺だからこそ、力に慣れると思うんだがな。気させてくれよ

セル子 だから、いま時間が無いんですよ

ノワ あと十五分くらいじやないですか

セル子 あああ、ガラ子、魔法じやなくていいから助けて

ガラ子 うーん、先生ならなんか良い案だしてくれるんじやないの

セル子 やめて、今、モリス先生を呼ばないで、ややこしくなるから

セル子 あと、絶対面白がってるでしょ

ガラ子 もう、呼んじやつた

180 教室のドアが勢い良く開き、モリス、勢い良く入室

モリス 呼んだかね？
セ以外 おはようございまーす

モリス おはよう。諸君。どうしたんだい、セル子君、随分焦っているようだが

セル子 あああ：この後ヤバイ追試があるんですけど、全然わかんないです

セル子 でも、誰かの魔法には頼りたくないんです

モリス 私、格好はつけたいけど、学校はやめたくないんです！

モリス よくわからないけど大変だね

モリス それはもう、君が魔法を使うしかないんじやないかな

セル子 知つてるでしょ、無理なんですよ

モリス 無理じゃない。君が無理だと思うから無理なんだ

モリス 逆に、出来ると思えば出来る！それが、私達魔法使いだらう！

セル子 は、はい！

ノワ あと十二分です

モリス 時間がないな。いいだろう。みんな集まってくれ、これより秘伝を授ける

5人、円陣を組むように集まつて、ひそひそ話

意外と簡単だったようで「なーんだそんなんかよ」と言った感じでバラける

5人、魔法陣上の所定の位置につく

モリス 魔力を持たぬ魔術師が魔法を遣うなど、世の理の外れしこと

モリス まさに魔の道、これ魔道なり

モリス 諸君！我々はこれから悪魔を召喚し、その力を借りる！

モリス ういーす！

モリス 全員の力が必要だ

モリス いくら薄情な君達だつてここでセル子くんとサヨナラしたくはないだろう

モリス ういーす！

モリス さあ、心を一つに

沈黙

210

205

200

195

190

185

180

175

170

外見だけを入れ替えるとか、1日だけ、そういう悪戯どう？
いいっすね。それ
セル子 じゃあ決まり

リゲル 代償はさ、僕しばらくこいるつもりだから、今度何か美味しいもの奢つてよ
セル子 全然おつけーすよ
リゲル はい、じゃあ一回分ね（セル子に向けて指をならす）
セル子 :フフ(力がみなぎる)

セル子が、ガラ子に触ると、ガラ子の時間が動き出す

ガラ子 あら、成功したみたいね。:何がおかしいの？
セル子 ガラ子。悪いけど、私の身代わりになつてもらうから
ガラ子 はん?何?結局私に頼るわけ？それで良いの?
セル子 良い！良いんだよ！だってこれはガラ子の魔法に頼つたわけでもなければ、
ましてや、勉強を教えてもらつたわけでもない！
だからこれははセーフ、セーフなんだよ

ガラ子 心底呆れるわー
セル子 うるさいうるさい観念しなさい！
いくよ

短い深呼吸
ガラ子を指差して

セル子 ガランス・トランス・クロス・トレース・セルリアン！
貴方が私で私が貴方！テストよろしくう！ハッハッハッハ！(とにかく高笑い)

みんなの時間が動き出す。

グリ うわ、なんだおまえ
リゲル 悪魔です
グリ おう（握手！）

モリス 初めまして、悪魔くん。私は十四代目ルナ・スペキュラム・モリス

君と話したいことがたくさんある。一杯飲みに行かないか

あーどもども、行きましょ行きましょ

リゲル わたしもいきますわ
セル子 モリス おお、ガラ子くん、いいだろ、きたまえ
グリ セル子 オ！どうやら一見落着っぽいな！
俺たちは行くから、試験がんばれや！
セル子さん、あと五分ですよ。

ガラ子を残して、みんなぞろぞろ出していく

290

285

280

275

270

265

260

255

ガラ子

ガラ子 本当、莫迦なセル子、私が追試とやらをサボちやつたらそれまでじやない

ガラ子 フツフツフ、ハツハツハ、ハハハハハハハハ(三段笑)

ガラ子 良いじやない。やつてやろうじやないの。何の試験か知らないけど、関係ないわ

ガラ子 簡易詠唱

ガラ子 ラツツ・マニツト・エト・ドロウ

ガラ子 時よ止まれ

ガラ子 テストなんて簡単だ!

ガラ子 教室。ガラ子が疲れて伸びて意識を失っている

ガラ子 教室のドアが静かに開き、ノワ、静かに入室

ガラ子 眠っているガラ子に気付き

ノワ 月の砂。金の羊。甘いミルクの入った紅茶

ノワ ピールス・ドグ・ドナ・カーデット・レト・リオン

ノワ 軋み解ける身体に祝福を

2 —第2話— 「先輩なんて簡単だ。」

暗転

第一話 END

ガラ子 テストなんて簡単だ!

ガラ子 時よ止まれ

ガラ子 本当に、呪文ならモリス先生に聞いた方が早いわよ

ガラ子 結局私も習ったまんまだから、大して変わらないと思う

ガラ子 んー、私も別に、もう呪文は必要ないです

ガラ子 それに、呪文なんて極論魔法をイメージする助けでしかないじやないですか

ガラ子 たしかにね

ガラ子 静寂
ガラ子 目をさます

ガラ子 ん?、身体軽。あ、ノワちゃん

ガラ子 ノワ おはようございます。先輩。

ガラ子 ノワ ああ、おはよ。ごめん、寝ちゃつてた。もしかして待たせてた?

ガラ子 ノワ いいえ、丁度今來たところです

ガラ子 ノワ それは良かつたわ。で、私に用事つて何?

ガラ子 ノワ あの、実は一つお願ひがあるのですが

ガラ子 ノワ 何よ改まって

ガラ子 ノワ ガラ子先輩、私に先輩流の魔法の使い方を教えて頂けませんか?

ガラ子 ノワ ガラ子 :なるほどね、そうきたか

ガラ子 ノワ やはりダメですか?

ガラ子 ノワ だめではないけれど

ガラ子 ちなみに、呪文ならモリス先生に聞いた方が早いわよ

ガラ子 結局私も習ったまんまだから、大して変わらないと思う

ガラ子 んー、私も別に、もう呪文は必要ないです

ガラ子 それに、呪文なんて極論魔法をイメージする助けでしかないじやないですか

ガラ子 たしかにね

ノワ

ガラ子先輩。単刀直入に言わせて頂ければ、

私がお聞きしたいのは先輩の魔法の源。魔力についてなんです。

ガラ子
ノワ
ふーん、続けて
ガラ子先輩。先輩の魔法は、はつきり言つて異様です。

单纯な出力。実行可能な事象の多さ。1日に唱えられる回数。

私、たまにガラ子先輩の魔力は無限なんじゃないかと思つてしまいますが
しかし、そんな筈はありません。魔法使いも人間なので、限界はあるはずです
どれも私達とは比べ物になりません。

ガラ子
ノワ
うーん、こればっかりなはね
ガラ子
ノワ
お願ひします。悪いことには使いません。ヒントでも良いのです
私も魔法使いとして生まれた以上、この力の真髓に近づきたいのです
ガラ子
ノワ
違うの。私にも分からぬのよ
だから、私にとつてがこれが当たり前で、特に何かをしてもいない
ガラ子
ノワ
やはり、才能ですか
ガラ子
ノワ
そうかもしね。でも一つ言えることはあつて

間

ガラ子
ノワ
ノワちゃん、魔法っていうのは気合なのよ
氣合? 気合ですか

ガラ子
ノワ
そう、気合。思いの強さが魔法の強さなの

ガラ子
ノワ
少なくとも私にとつてはね
私、魔法を使いたいっていう気持ちだけなら誰にも負けない自身がある

ノワ
なるほど。それは以前から聞いていましたし

ガラ子
ノワ
私も決して、真剣でないわけではないのですが、そうなのですね
ごめんね。力になれなくて

ガラ子
ノワ
いえ、大丈夫です

しかし困りました。実が私は魔法を遣うと直ぐに疲れてしまうのです
なので、気合となると、あまり向いていないのかもしません

ガラ子
ノワ
あー、だつたら私よりグリさんに聞いたら

ガラ子
ノワ
あの人もう、三十近いし、魔力も少ないので、それなりに魔法は使えるじゃない
んー、私グリさんのこと、あまり好きではありません

ガラ子
ノワ
ああ、やっぱり

ガラ子
ノワ
てか、むしろ嫌いなんですよね。一発ぶん殴りたいとも思っています

ガラ子
ノワ
そんなに?

魔法使いの恥さらしですよ
魔法がつかえないならまだしも、それなりに使えるというのに

教室のドアが非常に勢い良く開き、グリ、勢い良く入室

続いてセル子も入室

420

415

410

405

400

395

390

385

380

グリ おいっす！

セル子 セル子 おいっす！

ガラ子 ガラ子 あら、噂をすればなんとやら

何？莫迦二人がタッグを組んでどうしたの？

セル子 セル子 ちょっとといきなりひどくない？！

グリ グリ かまわんさ、セル子後輩。男にとつてバカは褒め言葉。

釣りバカ、三バカ、野球バカ、俺は「魔法バカ」だ！

間

セル子 セル子 わたし女です

ガラ子 ガラ子 はいはい。バカで良かつたですね。で、グリさん私に何のようですか
グリ グリ ガラ子後輩。今日こそ、君の魔法より、

先輩たる俺の魔法の方が優れていることを証明してみせる

ガラ子 ガラ子 はあ、いったいそれに何の意味がお有りで？いくら頑張ったところで

貴方の魔力がわたしよりも圧倒的に低い事実は変わりませんよ

ガラ子 ガラ子 意味ならあるさ、これはプライドの問題だ

グリ グリ 何度もいうぞ、ガラ子、「魔法はテクニック」だ。俺はそう信じてならない

何度でも否定しますよ。グリさん。「魔法はパワー」です

ガラ子 ガラ子 そもそも、人間が技術で実現できない願いを叶えるのが、魔法です

魔法というものは本質的に純粹なパワーなんです

グリ グリ 浅いな。物事を多面的に見ることができないからだ。

人間の技術の裏には、必ずその技術を成立させたいという願いがある
そう、人類はずっと、パワーとテクニックを組み合わせて発展してきた

魔法が純粹なパワーなら、それを扱う人間にはテクニックが求められるはずだ
ガラ子 ガラ子 ならば結局どちらがより重要なんですか？

グリ グリ 曖昧な結論ですね。成績の悪い人はこれだから困ります。

魔法 イズ パワー これだけがたつた一つのシンプルな答えなんです

さあ、教えてあげますよ。世界は貴方が思っているよりも、簡単だということをね

グリ グリ ならば俺も教えてやろう。この世にシンプルな答えなど無い

白黒つけない、灰色の結論こそがこの世界の真実なのだとな

そして、俺は先輩としての威儀を取り戻す！

両者、睨み合う

教室のドアが開き、モ里斯、リゲル、入室

モリス モリス おはよう。諸君。随分盛り上がっているね。私達も仲間に入れてくれないかな
リゲル リゲル どーも、お邪魔しています。モ里斯博士あれは何をやっているんですか
モリス モリス 悪魔くん、彼らは、これから「魔法使いのケンカ」を行おうとしているんだ

リゲル なるほどケンカですか、ルールとかは有るんですか
モ里斯 ないよ。これはケンカだからね。同時に唱えて、単純に速くて強いほうが勝つ

ガラ子 抜けよ三流魔法使い
グリ では遠慮なく、一流魔法使い様

一本目、同時に、ガラ子、ワンテンポ遅れて、最後は追いつく

グリ 固まれ

ガラ子 レド・ウォース・レフ・イルブ・スライグ

トリット・ニラ・サイフ・パウズ・エンクレグ

何も起こらない

リゲル 何も起こりませんね

モ里斯 魔法が相殺したんだね

ガラ子 一本目は耐えたようですね。ですが、二本目はどうでしようかね？
グリ …フフフ。まだまだよ

一本目、同時に、ガラ子、ワンテンポ遅れて、最後は追いつく

グリ 溶解せよ

ガラ子 ネトロ・レグニフ・レフ・エクマ・スライグ
変化せよ

トルカ・レグニフ・サイフ・エグナク・エンクレグ

グリ、膝をつく

リゲル 勝負ありましたか

モ里斯 いや、まだだ

グリ あぶないあぶない、流石ガラ子後輩だ

ガラ子 もう、やめます？降参するなら今の内ですよ

グリ 遊びは終わりだ。この勝負勝たせてもらうぞ

セル子オ！

セル子 はいはい。ガラ子ー。これ何かな？

セル子、テストの答案用紙を取り出す

ガラ子 気を引こうたって無駄よ

セル子 わかつてゐるって、でもおかしいんだよ

これ私のテストなんだけどさ、普通に七割あつてるんだよね

三

ガラ子：…そうね

セル子 だとしたら面白いよね。ガラ子もいきなりだと三割は間違えるんだ

意外と可愛いとこあるじやんて思うよ

ガラ子
違うわよ。それは貴方が全問正解だと不自然だからわざわざ：

グリ もらつたア！

逆巻き渦巻き溢れよ

逆巻き渦巻き溢れよ
ローケル・フォエルテック・リフ・レフ・レドロ・ゴアスライグ

ガラ子 やば！ 地獄の釜よ開け

475

グリ どうだい。俺の一日酔い魔法のお味は？

まるで前の晩に一升開けたみたいに效くだら
う、ういこ、お酒こは弱くていつぞ、二日酔は刃本食

貴重な体験をありがと

クリ そうか、じやあゆつくり楽しんでくれ

私グリさんには

グリ 見たか、これが俺の「テクニツク」だ

グリ ほら。限界なんぞ、無理しないで行けば

カニ子 走って教室から出でいく

セル子 うわあああ、ごめん！ガラ子ごめんよー

卷之三

モ里斯 セル子くんだけでは心もとないな、私も失礼するよ

モリスも出ていく

グリ、ノワ、リゲルだけが残る

バ
リ
券の二種は買つておき

苦節三年・奴と始めて遭遇した時から、この日を待ち続けた

ククク
ノの後輩
俺の勇姿
その目に焼き付けてくれたかな

ノワ 軽蔑します。本当に

本当に？本当にそれで良いのか？ここで俺を軽蔑するのに簡単だな
何かを学び取つたって良いだろ

ノワ あなたから学ぶことなど、何一つありません

グリ 強情な後輩だ。先輩として大事なことを教えてやろう
まず、俺も君も、いくら普通に努力したとこで、ガラ子には勝てんぞ
ノワ そんなことないです

グリ 私、ガラ子先輩には勝てなくとも、並び立つくらいにはなります：
いや無理だろ。あいつの魔力は異常だ。誰も追いつけない。冷静に考えてな
ノワ それでもいつかは、必ず追いついてみせます

グリ ノワ それでもいつかは、必ず追いついてみせます
ノワ グリ いつか？ いつかだと？

ノワ いつたいお前は何時まで意味のない努力を続けるつもりだ？
グリ 僕は御免だぜ。俺は努力意外のやり方でガラ子を超える

ノワ そうですか。それがあの汚いやり方なんですね。あなたはそれで良いんですか？
グリ 良くはねえ

ノワ だが、ああしなければ、あそこに蹲っているのは俺だった
ノワ じやあもうケンカなんてしなければいいじゃないですか

グリ それは出来ない、俺はガラ子に勝たなければいけない
ノワ 何ですか

グリ それは俺が、ガラ子の先輩だからだ！

沈黙

グリ そしてノワ、お前の先輩だから
ガラ子に付いていくのはやめろ、お前の道を行け、

お前はガラ子にはなれないし、なる必要もない。この通り、奴も完璧じゃない

沈黙

グリ そしてそしてなにより！俺が魔法使いだからだ

歪でも良い、汚くても良い、俺は俺に出来る全てのことをする。全てだ
それが俺の、魔法なんだぜ

沈黙

ノワ なるほど。一寸の虫にも五分の魂。

グリ グリさんもそれなりに一生懸命生きていたのですね
どうだ？ ちょっとは俺を尊敬する気になつたか？

ノワ 嫌です。

グリ ああ？

ノワ 嫌です。私はそれでも、ガラ子さんを目指します
グリ 本当に強情だな。それに何の意味がある

ノワ 意味なら有ります。完璧じゃなくても、届かないかもしけなくとも
強くて優しいガラ子先輩が私は好きなんです。だから、頑張れるんです。
それに私、気合があるんで、ガラ子さんに付いていくためなら何でもしますよ

リゲル
ノワ
はい？

卷之三

550

リゲル じゃあ、何かしようよ

リクバ 前に躍り出る

リゲル ノワちゃんとやら、君、あのガラ子ちやんなみの魔力が欲しいんだよね？
ノワ まあ

リゲル じゃあ、僕があげるよ。君の魂と引き換えに
ノフ 兼です。愧くなつたつ意味ありませんか？

リゲル そうか、じゃあ、こういうのどうだろう

僕ほら、悪魔だからさ、悪いことの手伝いなら出来る
別えぱこのり、目の前の兼いな光景かう、魔力ひとつらやうとかじこう?

ノワ
例えはこの 目の前の娘ひでちと書かれて居たとがどうか
莫迦言わいでください。そんな酷いことするわけないじやないです

グリ いや、 ありだろ
ノフ は、?

グリ 冷静に考えろ、ノワ後輩。これは君がガラ子並の魔力を得る最後のチャンスだ

ノワ
正気ですか？グリさん、魔法使えなくなつてもいいんですか

クリ
当然リスクはあるさ
例えばほら
実は俺もその話
一枚嘲ませてほしいとか

グリ
おい悪魔、もしノワがその話断つたら、俺に魔力をくれよ

そのクソ生意気な後輩の魔力と控えにさ
そりや俺だつて欲しいさ、ガラ子なみの魔力、手に入るもんならな

リゲル　いいよ。これは僕の仕事みたいなもんだから、断る理由はない

グリ でも、いいのかい？ こういう場合、交渉の権利は対等に有つて良いと思うんだけど、そうだなあ。じゃあ俺とノワで勝負して勝つた方が先つてのはどうだ？

リゲル わかつた

ノワ
ちよつと勝手に決めないでくだ
リゲル
いいや。もうこの話は決まつた

だって君が乗らなきや、魔力を取られるのは君なんだぜ

グリとノワ、向かい合つて位置につく

ノワ グリ先輩本当に良いんですね。私勝ちますよ
グリ それは俺のセリフだ。だが、俺はどちらが残つても後悔はない
ノワ そうですね。だって私も貴方も

630

625

620

615

610

605

600

595

590

グリ 魔法に掛ける気持ちは
ノワ 本物ですかね！
グリ 本物だからなあ！

一本目、同時に、グリ、ワンテンポ遅れて、最後は追いつく

ノワ 駆けよ

ラツツ・ドール・ミフ・トッシュ・リオン
グリ 埋まれ

リウフ・ドール・レフ・イルブ・スライグ

何も起こらない。グリ、疲れてくる。

リゲル 相殺ね

グリ まだまだア！
ノワ はい！

二本目、同時に、グリ、ワンテンポ遅れて、最後は追いつく

ノワ 転輪せよ

リオット・テム・エルブ・ラク・リオン

グリ ウォウリイ・ライフ・レフ・ラク・スライグ

グリ、崩れ落ちるが何とか起き上がる。

グリ ヘヘヘ、やっぱお前すぐえよ、流石ガラ子の後輩だぜ

(かなり弱っている)

ノワ 先輩、次でキメますよ

グリ どんとこいやア！

三本目、ガラ子が乱入する

ガラ子 あんたたち！なにやつてるの！

ノワ 邪魔しないでください！これは私とグリ先輩の問題なんです

グリ ガラ子、手をだしたら承知しねえからな、そこで大人しく見とけ

リゲル 彼らはいま、お互いの誇りと未来をかけて戦っているのです
もちろん合意の上でね。彼らの選択を邪魔してはいけませんよ

ガラ子 はーん、そういうこと。なるほどね。だいたい判つたわ

莫迦ね。ほんとみんなバカ。魔力なんてあつてもいいことないのに
ノワ :貴方に何が分かるんですか！

貴方と違って、私やグリさんは中途半端なんですよ
私達は魔法使いで、何でも願いを叶える力を持つてゐるはずなのに

意外と簡単に限界が来るんです

そしてそれだけは頗つても頗つても変わらないんです

ガラ子 そんなの当たり前じゃない、私達は人間なのよ

ノワ でも貴方は違います！ガラ子先輩の魔法には本当に限界がない

ガラ子 正直、悔しいです。でも、だからこそ私は、貴方に憧れてしまうんです！
ノワ ；莫迦ね

ガラ子 ノワ へ？

ガラ子 あなたじゃ無理。私には永遠に追いつけない
ノワ だから、私の周りをブンブン飛ぶのはやめて、自分で生きていって。ウザいのよ
グリ ならば。邪魔をしないでください

ガラ子 ガラ子 それも無理、気に食わないのよね。こういうやり方

ノワ ガラ子さん、ちょっと魔法が使えるからっていい気にはません？ブツ飛ばしますよ
ガラ子 雑魚が、生意気な口は私に勝つてから聞きなさい

ノワ ガラ子 そうさせてもらいます！いくら先輩が強くても、今回だけは負けません
ノワ 私、魔法が上手くなりたい気持ちだけなら、貴方よりずっとずっと強いですから！

グリ よく言つたぞノワ！

グリ、勢いよく立ち上がる

ノワ グリ 見せてやろうぜ。あいつに、「俺たちの」魔法をな
ノワ グリさん、あなたもう…

グリ うるせえーーー！
ノワ ガラ子！よく聞け、思いの強さが魔法の強さだ！そして、俺達は魔法使いだ！
ノワ 行くぞ！

三本目 ガラ子 vs グリ and ノワ

ガラ子 簡易詠唱

レリック・ニーグ・エト・トッド

時を分ける

時間は二等分したわ、強さで私に勝つんでしょ、好きに呪文を唱えなさい
なめやがって…合わせるぞ！

ノワ はい！

二人 ルナスペキュラム式共鳴魔術！

ノワ 銀の月

二人 黒い泥

ノワ 凍てつき

二人 循環するアリア

ノワ 星は走り、人は還る、膨張し湾曲し消滅するものに問う

グリ 穢れよ満ち、大地に蔓れ、増殖し崩壊し進化するものに問う

710

705

700

695

690

685

680

675

ゆつくりと暗転しかかる、が、しない

ノワ
グリ
ノワ
私の樂園で眠れ。繰り返す開闢と終焉の惡夢へようこそ

ムジガ・オルキム・ドルフ・リフ・イルマグニス・ゴアスライグ
ノワ
スペイル・レイル・トラツツ・イクス・イルマエリス・リヒトリオン
グリ
俺の地獄で叫び

ガラ子

朱の棘。真紅の血潮。爆散し溶融する極熱のプロミネンス
街は焼け、海は枯れ、人は去り、星は凝縮し重い渦を巻く
圧縮し貫通し衝突し変形し拡散し収束し破壊するものに命ず

二重詠唱

エル・マルク・セルブ・ポルベッド・ネイブ

・リフ・レフ・サイフ・ニヒト・ウォル・トリクサー・エンクレグ・エンクレグ
万象一切灰燼滅却魔力溶解無限希釈!

なにも、おこらない

静寂

グリが倒れ意識を失う、ノワがへたりこむ

ノワ なんで…何も起こらない

リゲルが苦しみだす

リゲル :貴様、何をした?

ガラ子 あら、ノワ達の魔法をキャンセルするついでに、

この辺りの魔力を散らして極度に薄めてみたのだけど、貴方には結構効くのね

リゲル :そりやそうさ、僕は魔力そのものだからね
ガラ子 ごめんなさい。でもこうでもしないと、あの子は諦めてくれないだろうから

リゲル 勘弁してくれよ

ノワ はは、ははははは

めちゃくちゃだ、意味がわからない。ダメだ、やっぱガラ子さんには勝てないや

というか、そんなイメージわかない

ガラ子 これでわかったでしょ。私と張り合つてもしようがないのよ
ノワ はい。なんかもう色々とどうでもよくなりました
でも、そんなに悪い気分じやないです

ノワとモ里斯が勢い良く戻ってくる

セル子 うわ!これどうしたの?

モリス 悪魔くん。死にかけているね。悪魔も死ぬんだね

リゲル 博士、助けてください
モリス いいだろう

モリス、リゲルに駆け寄り起こす

リゲル ありがとうございます

モリス 歩けるかい？

モリス よし、では、後は頼んだよ

モリス なんとか

モリス、リゲルをつれて出でいく

セル子 ガラ子 私が戻つてきた
セラ子 で、何があつたの？

ノワ （すぐ遮つて）ちょっと、大ゲンカしただけです。ガラ子さんと私とグリ先輩で
さ、グリ先輩、いいかげん起きてください

グリ、動かない

ノワ 香る草。白い花

ミフ・ニュート・フォグ・リオン

疲れた身体にこの一本！

ノワがグリの背中を勢い良く叩くと、グリが起きる

グリ ふお！うおお、おう。ノワ後輩、どうやら我々は負けたようだな

ノワ そうですね

グリ そうか！じやあ今日は一つ、残念会でもやるか

ノワ グリ先輩のおごりですか？

グリ おお、そうだ。そうだよー。

ノワ やつたー。では行きましょう。善は急げです

グリ わかった、わかった。でもちょっとふらふらするからさ、先行つて店探しといってくれ

ノワ 了解でーす

：ガラ子先輩、色々とありがとうございました。（背を向けて立ち止まって）

ガラ子 ；では、また明日！（振り返って）
ガラ子 また明日

ノワ、勢い良く出していく、グリもフラフラとあとを追う

グリ （背を向けて）ガラ子。ありがとな。助かつたぜ

ガラ子 どうも。ちなみに助かつたのはだれなのかしら

グリ ……（振り返って）俺に決まつてんだろ！じやあな！

グリ、勢い良く出ていく

グリがさつて、ガラ子もへたり込む

755

750

745

740

735

730

725

720

715

セル子 なんか、大変だったんだね
ガラ子 そうね。もうヘトヘト
セル子 大丈夫?
ガラ子 大・丈・夫じゃないつ、でも大丈夫
セル子 はあ。ちょっと外の空気も吸いたいし飲み物買ってくるわ
セル子 おう、いってら

ガラ子、扉から出かかって

ガラ子 セル子
セル子 なに?
ガラ子 先輩ってなかなか大変ね
セル子 そう?きっと普通にしてれば簡単だよ
ガラ子が出ていき、扉がしまり、暗転

第二話 END

3 —第3話— 「人生なんて簡単だ。」

教室。セル子が適当にくつろいでスマホでゲームをしている。
教室のドアが勢い良く開き、モリス、勢い良く入室

モリス おはよう。諸君
セル子 おはよーす
モリス 珍しい。今日はセル子くんだけか
セル子 そうみたいですねー
モリス なるほど、それは都合がいいな
セル子 そりやよかつたつす

沈黙

モリス セル子君。君、人生について考えたことは有るかい?
セル子 はあなんすか急に
モリス いや、わかってますよ。だから、なんでいきなり人生なんすか?
モリス いきなり?なるほど時間の問題なのかな?
セル子 いやいや、そりやありますよ。でもいつもってわけじゃないですか?
モリス そうか。私はいつも人生について考えている

795 790 785 780 775 770 765 760

3 —第3話— 「人生なんて簡単だ。」

教室。セル子が適当にくつろいでスマホでゲームをしている。教室のドアが勢い良く開き、モリス、勢い良く入室

セル子 なんか、大変だつたんだね
ガラ子 そうね。もうヘトヘト
セル子 大丈夫?
ガラ子 大・丈・夫じゃないつ、でも大丈夫
セル子 はあ。ちょっと外の空気も吸いたいし飲み物買つてくるわ
セル子 おう、いってら

ガラ子、扉から出かかつて

ガラ子 セル子
セル子 なに?
セル子 先輩つてなかなか大変ね
セル子 そう?きっと普通にしてれば簡単だよ

840

835

830

825

820

815

810

805

800

セル子 そうっすか：

沈黙

モリス セル子君知つてるかい、私の魔術師としての最大目標はウハウハな人生を送ることなのだよ

セル子 はあ、ウハウハつか

モリス そう、ウハウハだ

モリス えー、じやあそのウハウハって、具体的にどんな感じで？それはわからない。私はいつもその答えを探している。ウハウハ…

気まずい沈黙。モリスはぶつぶつと何かを考えている

セル子 あの、モリス先生…

モリス セル子君。君なら知つてるんじやないか？

モリス ウハウハな人生、それが一体何なのかを

セル子 先生にわかんないものが私に私に解るわけ無いでしょ

モリス あなたがちそうとも言えないと

私の知る限り、君は非常に単純な思考の持ち主だ

そのような思考の持ち主は意外と簡単に物事の真実にたどり着く、場合がある

セル子 そんなもんすかねえ

モリス そんなものだよ

セル子 あー、じやあまあ、
強いて言えば、常夏のビーチで、豪華お酒と料理に囲まれて、
しかも沢山のイケメンか美人のねえちゃん達にちやほやされれば

モリス そりやもう文句なくウハウハって言えるんじやないっすか
…なるほど。それは確かに魅力的な話だな

では、どうすればそこにたどり着ける？

セル子 そりや金っすよ。金さえあれば人生ウハウハ間違い無しです

モリス なるほど金か。確かに道理は通つている

セル子 いや先生？ そんなに真に受けなくていいんですよ

セル子 君はたかがテストの一つや二つで悪魔を呼べる程度には単純な思考をしている
それは、我々のようなレベルの高い魔法使いには到底できないことだ

セル子 さいですか：

モリス しかし、やはり得心行かないな

モリス 青い海真っ白なビーチ、酒、肉、日に焼けた美人のねえちゃん達のはじける笑顔…
私の追い求めてきた理想が、果たしてそんなものだつたかといや…そんなもんなんすよ。きっと

教室のドアが勢い良く開き、ガラ子、勢い良く入室

ガラ子 あら、珍しい組み合わせ
モリス やあ、ガラ子君、調度良い。君にとつて人生とは何だい？

ガラ子 は、いきなり何すか
セレ子 ん? らくかにて君人生こつゝて考え方ここに無い?

ガラ子 あるわよ！そんなの決まってます

本当に困っているが居たら、こつそり助ける色んなことを学んで、良い魔法使いになつて

それが魔法使いとして生まれた私のやるべきことだと思つてます

モ里斯 立派だね。だが、私にとつては既に考え終わつたものだ
これで満足ですか？

ガラ子 悪かったです。参考にならなくて
でも、このくらい簡単な考え方のほうが、むしろ一回まわって良いと思いますよ

モリス ああ、確かにその通りだ。私はそれをずっと見落としていたのかもしれない

完
然

モリス ありがとう。実際に有意義な時間だった。ではそろそろ、私は旅立つことにするよ
ガラ子 はあ、またいきなり出張ですか…
セル子 お土産待ってまーす
モリス いいや。今回はもう戻らない
黒の6番、リヴィード・ノムス・サイローム

教室のドアが勢い良く開き、リザル、勢い

教室の窓へと近づいて見えた。窓の外は、まだ朝の光が差す

よ
い
よ
い
。
四
九
二
2

モリス　リケル　はいはい　契約ですね

リゲルでは願いを

モリス ウハウハな

そして何より綺麗なねえちゃんがいっぱい居たほう

セル子 ちよつとまつたア！

モリス先生、見てわからなハ? 悪魔ト
ガテ子先生 なにしちやうでくれて

ガラ子
いや、絶対ろくなことになりませんよ

モ里斯　いいだろう。実際ろくな願いじやないんだから

リゲル あの一代償のほうなんですけど

ガラ子 黙つて

セル子
え、もしかして私の魂使うつもりだつたんですか
ダニ
貴方の然つて

がう子
貴方も黙って
モリス
代賞は私の魂だ。何も心配することはない

セル子 やつたー

リゲル やつたー

ガラ子 私の話を聞いて！

沈黙

ガラ子 真剣に。先生、正気ですか。

魂と引き換えに常夏のバカンスだなんて流石に巫山戯すぎです
だいたい、そんなの普通にお金払って行けばいいじゃないですか
モリス 青いなガラ子君。そんなんだから君はグリ君にさえ遅れを取るんだよ

モリス ガラ子 今は関係ないすよ

モリス ガラ子 関係大有りだ。君は魔法は使えるけど、魔法使いについては何もわかつていらないね
ガラ子 解なんくても十分やつていただけますから

モリス ガラ子 確かに。君にとつては知る必要もないだろう。だが事実はそこに存在する
つまらない屁理屈はもういいです。私がいいたいのは：

モリス 静かにしたまえ。白の8。クレグ・ペイズ・サイローム

ガラ子、口が開かなくなる

モリス まずは復習。魔法使いは呪文を唱えなければ魔法を使えない

まあ聞き給え、未来ある魔法使いよ。これは私が君に行う最後の授業だ
さあ始めよう。schola de magia per mollis

沈黙。加工したようなチャイムが響く

最後の授業が始まる。皆大人しく座っている。セル子はスマホをいじっている

モリス 皆さんこんにちは

私の人生最後の授業である今回は魔法使いの終焉について学びたいと思います
ではまず、今日までの人生で魔法について学んだことを確認しましょう

：セル子君！

セル子 ういっす。魔法使いはすげえっす。だいたいなんでも出来ます
モリス はい、ざっくりだけどすごく纏まっているね

ただ一点、魔法を使うには強い思いが必要であることを忘れてはいけないよ

セル子 ほーい

モリス 何故なら思いを力に変えることが

魔法使いの始まりであり、また終わりでもあるからね

間

モリス 魔法使いたちよ。心して聞いてくれ

私達は強く思い魔法を唱えることで、どんな願いも叶えることが出来る
ならば、私達はいつたい何を願うべきなのだろう

もし、君が誰かの幸福を願うなら、魔法を使うべきではない

それは他人に自分の願いを押し付けることだから
もし、君が自分の幸福を願うなら、魔法を使うべきだろう

965

960

955

950

945

940

935

930

925

それを求めるのは人として当たり前のことだから
ならば、君はいったい何を願うべきなのだろう

あらゆる可能性がその手に有る。君はその一つを手に取り、口にする

ただ、決して忘れないでくれ

魔法は君の願いをかなえてくれるが、何を願えば良いのかは教えてくれない
そして、何も願わなければ、何も叶わない。時間だけが、過ぎていく

沈黙

モリス これで私の授業は終わりだ。君達のウハウハな未来を願っている

モリス、教室から出ていこうとする、ガラ子立ち上がる

モリス わからんかねガラ子君。何も願わず時間だけが過ぎたのは私は

私は魔法使いとして最大の喜びを手に入れようと思っていた
が、そんなものは根本的に存在しなかつたようだ

今なら解るよ。若き日に共に研鑽を積んだ魔法使いたちが
魔法から離れていった理由が

人が魔法を使いたいと思うのは、その先の人生をウハウハにしたいからであつて
そこに魔法はいらないんだ

だが私はもう魔法のことしか考えられない。だから、何を願えば良いかわからない
セル子 先生「魔法バカ」だつたんですね

モリス そのとおり。だがバカは男にとつて褒め言葉だ

そして、そんな魔法バカな私が思いついたのがこの方法だ
セル子君の簡単な脳みそがはじき出したシンプルにイイ願いを
代償は必要だが、思いのいらない悪魔との契約によつて叶える
私が魔法使いらしく人生をウハウハにする唯一の方法だ

悪魔くん

リゲル 用意は出来ております。扉の向こうはもうウハウハな世界でござります

扉を指差す

モリス、扉へ向かつて歩きだす
ガラ子がモリスを睨んでいる

モリス そう怒らないでくれガラ子君。私は満足しているよ

グリ君やノワ君にも伝えてくれ

ルナ・スペキュラム・モリスはウハウハな世界に行つたのだと。
…そしてこれが一人の魔法使いの最終到達点だ…さらばだ

モリス、扉から出していく。チャイムがなる。ガラ子の口が開くようになる

ガラ子 :クソみてえだ:(物に当たる)

1050 1045 1040 1035 1030 1025 1020 1015 1010

1130

1125

1120

1115

1110

1105

1100

1095

モリス どうなれば正しい

ガラ子 貴方をここにとどまらせること

モリス 意味はない、私は悪魔だ

ガラ子 どうにかします

モリス 気合です。私は諦めませんから、それが私の魔法です。

ガラ子 違う、それはただの暴力だ

モリス どうやつて？

ガラ子 諦めないことは暴力だ。他者に対する。そして自分の人生に対するな

折り合いを付ける。ガラ子

モリス でないと君はいつか本当に大事なものを見失う

ガラ子 なら、私達はどうして魔法使いとして生まれてきたんですか？！

セル子 違うよ！

沈黙

セル子 違うよ。こんなケンカをするためにモリス先生を呼んだんじゃない

モリス ；どうでもいいじやん。魔法とか、人生とか

何でみんなこう、不器用なのかな…

モリス先生。大人ならわかってやってください

ガラ子は単純にこの教室の誰かとお別れになるのが嫌なだけなんです。きっと

でもきっとバカだから、こんな言い方しかできないんす

許してやってください

モリス :

セル子 でも、わかつてください。先生がボンクラ魔法使いだらうが悪魔だらうが
私もノワちゃんもグリさんも、そしてガラ子も、先生のことめっちゃ好きなんで
いなくなるとキツイっす。やっぱ先生は先生なんっすよ

ルナ・スペキュラム・モリスは私達の先生なんっす

こんな恥ずかしいこと、言わないとかわかないかな…

モリス、倒れる

セル子 え？嬉しそぎて死んじやいました？

モリス そうかもしれない。まるで、悪魔になつて解消された、動悸息切れ肩こり腰痛が

同時にもどつてきたかのようだ

リゲル ハッハッハッハ、流石俺のマスターだ。土壇場で正しい選択をしたね

ノワ どういうことですか？

リゲル 名前だ。悪魔の本当の名前を彼女は唱えた

リゲル そうなつたらもう悪魔は絶対に逆らえないさ

ただそれだけじゃない、言葉そのものも、刺さったんだ。まさに原初の魔法だね

リゲル、モリスに近づき

リゲル 悪魔ルナ・スペキュラム・モ里斯よ

今、君の存在は主人の命により、「先生」と固定された
「先生」の定義は分からぬが、彼女にとつてはただの人間とかわらないようだな
いやあ、君はやはりどこまでも愚かで運のない奴だ。せつかく悪魔になれたのにな
モリス いや、悪魔くん。確かに私は愚かだが、幸運ではあるようだ
純粹に彼らの先生であること」これが私の第二の人生に課せられた使命ならば
これ以上ウハウハなことはあるまい

モリス 前と何も変わんないじやないっすか
え、じゃあそれって

セル子 やつたー?

ノワ やつたー!

グリ やつたー!

ノワ やつたー!

グリ、ノワ、モリスの周りで喜ぶ

セル子 え?これで良かつたのかな
リゲル 実際モリス先生は救われたようだ。それを良しとすれば良いんじゃないかな

セル子 へえ、もうどうしようもないと思つたけど。意外とポロツとうまくいくもんだ
リゲル まあ人生なんてそんなものさ。君達にとつてはね

リゲル グリ おい、セル子!モリス先生保健室連れてくから手伝つてくれ。意外と瀕死だ
セル子 え?あ、うん!

セル子、グリ、ノワ、モリス、慌ただしく出て行く

ガラ子、リゲルだけが残る

沈黙

ガラ子 あーあ、莫迦みたいじやん、私

リゲル そうだね。今回の、君は何にもできなかつた

ガラ子 五月蠅いわね……まあ、でも、そうよ。悔しいけどね

リゲル 悔しい、ねえ。はは、まさか君の口からそんな言葉が出るとは

ガラ子 別に、本当はいつも悔しいって思つてばつか
この間は、セル子には魔法拒否られるし、

ノワちゃんとはあれからちよと気まずいし

グリ先輩には負けるし、今日はモリス先生に怒られちやうし

最近上手く行かないのよ:ま、全部あんたが来てからだけどね

リゲル あはは、ごめんごめん、あるよねーそういうこと

ガラ子 ま、関係ないか。遅かれ早かれ、いつかは無理なこともあるつてわかつてたわよ

リゲル : でもこの先もずっとこうなのかなつて思うとゾッとするわ

ガラ子 そうなんだ
リゲル そうなんだ

1175

1170

1165

1160

1155

1150

1145

1140

1135

青いインクに溶かして刻め赤熱するグリフ

我が目に、爪に、喉に、骨に、そして虚ろなる頭蓋に

ノイト・エッグス・フレス・オッド・エンクラグ

二階堂ガラ子は魔法を望み、魔法は強い望みを望む

ならば私は望みを望み、望みを生む望みを得る

故に私に望めぬことはない。故に私に出来ない魔法はない

それは、人の心を縛る呪いかい？

ガラ子 そうよ。これが私の最初の魔法。

リゲル 私はどんな願いも叶えてみせる。そう、心に決めてるの

だから、私の心は絶対に折れないのよ！

リゲル うん。だから君は僕を否定することも絶対にできない

ガラ子 :

リゲル どんな願いが叶える君が、どうして自分の願いを否定できる？

リゲル いけないって解つても、それは君の本当の気持ちの一つなんだぜ

……大切にしなきや

空気が振動し始める

リゲル 始まつたよ。終わりが
じやあね。ガラ子ちゃん。僕はいまから大切な仕事に行かなきやいけない

不器用で、ひとりぼっちな女の子の、誰にも言えない願いを、叶える仕事にね
バイバイ、また会おう

リゲル、教室から出ていく。教室が闇に包まれていく

ガラ子 …みんな…セル子…ごめん…

魔法は簡単でも、人生は難しくって、私その難しさに

全暗。無音

ガラ子 耐えられないみたい

第三話 END

突然、教室のドアが勢い良く開き、モ里斯、勢い良く入室。息の荒いまま

モリス ガラ子君。それでも人生はまだまだ捨てたものじゃないぞ！

鏡の月。傾き六十度の銀河と揺れる霞草

無限に広がる黒き空に、生まれ出づる星を想う

白銀の333番

ドロウ・ラフィック・レイズ・エルドキス・シビュラサイローム！
闇を払い、世界よ輝け！

教室が一気に明るくなり、いつもに戻る

教室のドアが勢い良く開き、グリ、ノワ、セル子、勢い良く入室

セル子 ガラ子、大変だ。なんかいきなり隕石が落ちてきて地球が終わるっぽいぞ
ガラ子 うん、知ってる。でも、今回だけは……
もう、無理だよ

4 —第4話— 「世界を救うなんて簡単だ。」

モリス いいや。諦めるのはまだ早いぞ。ガラ子くん
グリ そうだぜ。だってここにいる俺たちは魔法使いだ
ノワ 魔法使いと気合があるかぎり、出来ないことなんて無いんですよ
あなたが教えてくれたことです
ガラ子 そうね。ノワちゃん。でも、私にはもう気合すら残つてないの
ノワ そうですか。じゃあガラ子先輩の分まで私が気合をだすとしましよう
ガラ子 でも、あなた、すぐ疲れちゃうんでしょ
ノワ 大丈夫です。鍛えたので
ガラ子 莫迦みたい

ガラ子 ノワ はい。私「魔法バカ」ですから

グリ おいおい、ノワ、お前ばかりカッコつけてんじやねえよ
ノワ 実際貴方よりも格好いいので
グリ 何を抜かすか。ガラ子、お前はそこで黙つてみとけ
そして、俺の本当の力を見抜き。俺を尊敬しろ
なんなら、惚れてくれたってかまわない

絶対無理

ガラ子 グリ じやあ、お前が無理だといったことをやつてみせるだけだ
モリス グリ 君、変な意地を貼ると、失敗した時に恥ずかしいよ
グリ 縁起でも無いこと言わないでくださいよ！先生！
ミスつたら終わりなんすよ今回は！

モリス ああ、だが残念なことに君一人がミスる可能性もあるのだ

魔力の少ないグリくんよ

グリ 大丈夫っすよ。鍛えたんで（腹をたたく）
モリス あーあ、いつたいどうして私の弟子達は、

こんなにもテキトーな連中ばかりなんだろ？ね。君知ってる？
ガラ子 先生の影響じゃないですか。論理的に考えて
モリス なるほどね。弟子というのは悪いところまで受け継いでしまうものなのか。
ガラ子君。覚えておきたまえ、世界から自分が消えようとしてすることと、
世界を消してしまおうとすることは、本質的には同じなんだ
どういうことですか

ガラ子 おっと、つい勢いでいつてしまつたんだが。裏目にでたね
モリス ただ、そんな氣がするのだよ

1345

ノワ それにここには誰一人、困っている貴方をほつて置くような人はいませんよ
グリ それが魔法使いのサガだからな

見えてくれ、ガラ子、世界を救うなんて

三人 簡単だ！

モリス、グリ、ノワ、教室から勢い良く出ていく
ガラ子とセル子だけが残る

教室。沈黙

1385

1380

1375

1370

1365

1360

1355

1350

セル子 行かなくていいの？
ガラ子 セル子こそ、行かなくていいの？
セル子 私がいつてどうするの
ガラ子 そうね。でも、それは私も同じ
セル子 何で？ ガラ子が一番上手く魔法が使えるんじやないの
セル子 ガラ子：魔法、使えなくなっちゃったみたい
セル子 何で？
ガラ子 ガラ子 わかんない。でもとにかく、イメージできないの、魔法使っている自分が
セル子 セル子 ガラ子 ガラ子 わかんないじやないよ、考えてよ
セル子 セル子 ガラ子 な・ん・で！
セル子 ガラ子 だから、わかんないの！
セル子 セル子 ガラ子 いつも頭使えつていってるの自分じやん
セル子 ガラ子 そうだけど…

考える間

ガラ子 たぶん、怖いのよ。私、今、魔法を使うのがすごく怖い
セル子 ふーん、詳しく
ガラ子 （ため息）：私ね、ずっと無理して魔法使つてたの
セル子 うん、知ってる
ガラ子 でも、それってね。やつちやいけないことだったみたい
セル子 私、だんだん自分の気持がわからなくなつていって、気付いたら
世界なんて終わつちやえつて言つてた……だからそんな自分が信用できないの
セル子 違うでしょ、誤魔化さないでよ
ガラ子 何を
ガラ子 セル子 自分の気持ちなんて、わかんなくなるわけないじやん、自分だもん
ガラ子 ジやあ、何で、こんなことになつちやたのよ
セル子 そりや、ガラ子がそう望んだからでしょ
ガラ子 ……そうね。そうよ。でも、だからもう私はもうダメなのよ、わかつて！
セル子 わつかんないよ！ちゃんと言葉にしなよ
ガラ子 だつて、今だつて、皆に無理しなくて良いつていわれて、
私それで満足しちやつたの。だから、今世界が終わるなら、本望なのよ

沈默

1390

ガラ子 だから、私はもう魔法を使っちゃいけないの。世界を壊しちゃうから
それにもし、世界が救われても、もう二度と魔法は使わない
大丈夫、きっと魔法なんかなくても、私は上手くやっていけるから
それでいいの？ガラ子

沙默

ガラ子
莫迦！良いわけ無いでしょ……！
自分でなんとかしたいわよ

私
今
今まで一
番魔法を使いたいって思
ってる……！

14/10

ガラ子 でも、本当にすごく怖いの！

七八三
乃三の肩を抱き
せり、人よ顔を見な

セル子、ガラ子の肩を掴み、ちゃんと顔を見る

じやないと絶対後悔する

やつて後悔することの方がすごく辛いのいのよ

じやないとガラ子はずつと前に進めなくなる

カニ子 それでも 悅いの

そしてそれで傷つくのは私だけじゃない

ガラ子 ひどい

セル子、手を差し伸べて

セル子 ほら一緒に行こ。ま、今更だけどね。

九月子 三

ガラ子 ないわよ！（少し笑顔）

ガラ子、差し出された手を握り返し立ち上がる

1470

1465

1460

1455

1450

1445

1440

1435

1430

セル子	ガラ子	ふう、ごめんね。ちょっと、冷静さを無くしてた見たい
セル子	セル子	んー？（不満そう）
ガラ子	ガラ子	何？
ガラ子	ガラ子	ごめんね。じゃないでしょ？
セル子	セル子	バカ、こういうときは、ありがとうっていうの
ガラ子	ガラ子	うん、ありがと：
セル子	セル子	まったくガラ子はバカだよね——本当に
ガラ子	ガラ子	魔法は使えるのにさ。こういうところだよ
セル子	ガラ子	（ちょっと、にやけてる）
ガラ子	セル子	なにニヤけてんの？反省してる
ガラ子	ガラ子	いや、不思議ね。セル子と話してたら、
セル子	セル子	さつきまで頭の中ぐちやぐちやだつたのが、どつか行つちやつたみたい
ガラ子	セル子	ああ、別に普通じゃない
セル子	ガラ子	そう、なんか魔法みたい
セル子	セル子	はつ、これが魔法なら。これ以上簡単なのはないな
ガラ子	ガラ子	だつて私にも使えるもん
ガラ子	ガラ子	そうね（僅かに笑って）
	一人、服を整える	
ガラ子	ガラ子	よし、じゃ、そろそろ派手にブチかましますか
セル子	セル子	ああ、いい加減私もイライラしてきたぞ
	一人で並んでガラ悪く佇む	
ガラ子	ガラ子	悪魔！
セル子	セル子	リゲル！
ガラ子	ガラ子	悪魔かなんだか知らないけれど、お前は少しやりすぎた
セル子	セル子	テスト、先輩、人生、これらを引っ搔き回した件はまだ許す
ガラ子	ガラ子	でも、世界を終わらせるのは許さない
セル子	セル子	人はどんなに間違つても、それでも、明日を生きなきやいけないんだ
ガラ子	ガラ子	探せ！セル子！
	ガラ子、セル子の方へ手を伸ばす。魔力の籠った手である	
ガラ子	ガラ子	簡易共鳴魔術！クレグ・プレフ・エト・トウウインクレス
	セル子、ガラ子の手から魔力を受け取る	

さーて一応私はリゲルのマスターだから…ほら、見つけた！

ガラ子 どこ？

セル子 あー、隕石の中

ガラ子 厄介ね。でも行くしかはないわ

セル子 おう！

ガラ子 フフフ、まつてなさい、この私、二階堂ガラ子と…

セル子 霧島セル子を怒らせたらタダじゃ済まない！

二人 そんな簡単なことを今からお前に教えてやる！

二人、すごい勢いで教室を出て行く。暗転
明転。少し色味が違う以外はいつもの教室

割れたチャイムの音、リゲルが鼻歌を歌いながら入ってくる

ランタンを傍らに、イスに腰掛け、

ウハウハなお菓子を食べ始める（または飲み物）

楽しいけど少し憂鬱そうにくつろいでいる

教室のドアがすごい勢いで開き、ガラ子、セル子、すごい勢いで入室

リゲル やあ、待ちくたびれたよ

ガラ子 隕石の中身がいつもの教室だなんて、随分良い趣味してるじゃない

リゲル だろう。実はこの教室、俺にとつても特別なものなんだよね

セル子 リゲル、君もしかして、この教室の生徒だったの？

リゲル そうさ、もうずっと昔。モ里斯先生よりももつと昔

俺は魔法使いで、人間だった

ガラ子 そしてどうせ貴方も、自分では何も願えなくなつて、悪魔に頼つたんでしょ

リゲル フツ、違うよ。僕は自分で望んで悪魔になつたんだ

ガラ子 は？

リゲル わからぬ？魔法使いだった俺は悪魔に成りたいと願つたのさ

沈黙

リゲル ガラ子ちゃん。俺はね、君なんかよりもずつとよく出来た魔法使いだった
ずっとね。友達の面倒もちやんと見てたし、

先輩や後輩に遅れをとるなんてありない。先生に怒られたことも一度もないよ
普く呪文の知恵と無尽蔵に沸き立つ魔力。俺に出来ないことは無かつた
皆が俺に頼つた。俺も信じた。俺の力が、この魔力が、
全ての…全ての人を…（物に当たる）

だがそんな俺も全ての希望と絶望をこの身に受け魂を引き裂かれた！
何故だ！

ガラ子 人間だからよ。魔法使いも心はタダの人間。だから全部の願いなんて聞けないの
そんなの私でも知つた

リゲル わかつてゐじやないか。そう、人間は弱い、弱くて、弱くて、嫌になる！
セル子 でも、その弱さは皆にあつて、そんなの誰だつて…

1555

1560

1565

1570

1575

1580

1585

1590

1595

でも、これから先をもつと大切なの。
人はどんなに失敗しても前に進まなきやいけないのよ

それは只の言葉だ、しかも君のじやない。それに、

君はそれで良いかもしないけど。他の人はどうするの？

ノワちゃんは、グリ君はモ里斯先生は？セル子ちゃんは？

みんな君の知らないところで勝手に傷ついていくんだよ。

ガラ子 知らない。でも、力になれる限り、私は力になろうとおもう

リゲル それって、本質的じやないよ。僕は世界を救うつてのはこういうことだと

思うんだ。現在進行系で救われない連中が生きるこの世界を救うには、

その世界の動きを止めるしかない

ガラ子 そんなに焦る必要はあるのかしら、もつとテキトーでいいんじゃない？

リゲル ダメなんだ！

沈黙

リゲル 君はいつかこの世界を、必ず壊す。俺は確信しているんだ

いつか君は、今は想像だにしないような、残酷な世界の真実に気付き
そして、君の思いは張り裂ける

君が壊れるか世界が壊れるかの二つに一つだ

君はそのどちらだつて願つたりはしないだろう

だから俺はこの世界を壊す

わからぬかな。僕、基本的には魔法使えないからさ。いつも考えてるんだけど

やつぱり、やれることはやつておくべきなんだよ。後悔しないようにな

悪いけど俺はそうは思えない

君が本当に世界に壊されないというのなら

それを俺に証明してくれ。魔法使いとして！

間

ガラ子 いいわよ

セル子 ガラ子：

ガラ子 大丈夫。私を信じて。これは私がやらなきやいけないことみたい

セル子 わかったよ。まつてるよ

リゲル 君を試すため、俺の最後の魔法を使おう

さあ、未来の困難さを知りながら、それでも未来が欲しいというのなら
俺を超えてみせろ、魔法使い

ガラ子 もちろんよ！

リゲル ステラレギオニス式契約制御魔術！

ザイラス・魔界との契約破棄、アルベム・我が存在が代償
リアトラ・存在を移行、レグラ・魂の焼却開始

続いて、簡易詠唱レリック・ニーグ・エト・トッド、時を分ける
さあ、好きに呪文を唱えるが良い
ガラ子 駆けるスカーレット。あざ笑うカーマイン。焼け付くるージュ。
奪い去るクレナイ。両断するシナバー。

猛り狂うクリムゾンと慟哭するヴァーミリオン！
守り祈り示し正し生まれ巡り切り裂き吹き出し流れ落ち染める赤を支配する。

三重詠唱

ドロウ・エトヴァス・ロル・レジム・エトニクス
ドナ・イクス・デル・エンファイド。
ドナ・リオット・シュラク・トリスエクスエンクラグ
心を燃やし、力を吐き出せ、星を碎き、世界を救う、言の葉よ！

間

リゲル ソルマグニフィカ式召喚術リヴィド・ノムス・レグラ！闇に溶けよ
魂を汚すネビュラ、光を喰らうジユピター、音を断裁するイトカワ

そしてルナスペキュラム式単独共鳴魔術！

屈折し、仮定し

反射し、推量し

交錯し、演算し

収束し、証明し

干渉する、結実する

百光のルクスと漆黒のグリフ

ドロウ・エト・フォド・リムダ

コルナ・ガ・レプス・エト・ダル

ノド・ガムラ・グノス・アグニス・レクスレグラ

日が沈み、夜を穿ち、

君の無くした言葉が、我が精錬なる光が、

真理を開き、世界を閉ざす

教室が暗くなつていい、ガラ子膝を付き、セル子が駆け寄る

リゲル 残念。君は頑張ったけど。それでもまだまだ世界には届かない
安心してくれ。きっと今日で世界が終わるのも、悪くないよ

暗転

ガラ子 ええ？ええ？嘘でしょ？全力だったのに

え？もう無理もう無理、これ以上はできない

セル子 ガラ子、やつぱりこうなつたか

ガラ子 やつぱり？ひどくない

セル子 でも、ガラ子気合入れると、ろくなことないよね。最近

1635

1630

1625

1620

1615

1610

1605

1600

1680 1675 1670 1665 1660 1655 1650 1645 1640

ガラ子	そんな！じやあ、いつたいどうするのよこれ！
セル子	このままじゃ世界が終わっちゃうじゃない
ガラ子	ガラ子はどうしたい
セル子	セル子も考えて
ガラ子	沈黙
セル子	一緒に来て
ガラ子	もちのロン！
セル子	ん？
ガラ子	そばに居てくれてありがとう
セル子	それは、お互い様！
リゲル	一気に、明るくなる。手を繋いだ二人が堂々と立っている
二人	魔界へと誘うリゲル！
ガラ子	よく聞け
セル子	確かに
ガラ子	人生は
セル子	世界は
二人	難しい
ガラ子	無茶をすることもある
セル子	諦めることもある
ガラ子	傷つき
セル子	打ち捨てられ
ガラ子	世界を憎むことだつてある
セル子	でも、それでも人は生きて行けるんだ
二人	関係ない！
セル子	私はそれでも進む。この先にどんな困難が、絶望が待っていても
リゲル	何故だ何故、まだ立ち向かえる。勝てるとでも思つていてるのか、この俺に世界に
二人	私は一人じゃない、たつたそれだけの事が、どんな魔法よりも強く私を支えるから
ガラ子	教えてやる一人ぼっちの魔魔
二人	世界を救うのはいつだつて
セル子	世界を使つて
ガラ子	魔法使いだ
二人	違う！私達だ！
セル子	人間だ
ガラ子	改！！！！！！
ルナスペキュラム式共鳴魔術・	

ガラ子 赤い炎、見つめ、解き明かし、振るい裁くはガランス！
セル子 青い空、耳を済まし、隠れ、紡ぎ笑うはセルリアン！

青い空　耳を澄まし　隣木　緑葉等　は十八歳

1685 カラ子 繁け 私の呪文 届け この言葉 強がりな君が 頼りない君が 世界に 負けないよう 自分に負けないように セル子

ガラ子 詠う みんなの世界が 思いが いつまでもいつまでも

世界があなたの思ひが
いつまでも
セル子 謳う

ガラ子 消えて
セル子 なくなつてしまわないように

ガラ子 ドロウ エト ウォーリン ジーテク レドロ
セル子 世界よ どうか 今だなは 簡単こ そう祈ります

セル子世界よりどうか今が

ガラ子 魔法なんていらない
二へばいきの三バ

セル子 二人繋いたこの手が
二人 一番大切な魔法なんだ！

ガラ子 エクス！…エンクラグ！

卷之三

空気が震える

リゲル ああ、魔法が隕石が僕が、消えていく

海しいが認めよう。世界は救われた！

ノリゲル　よしと
（通じに喜ぶ）

リゲル二人をソファに押し込む

ノミニ

八〇当たり

リケル
いや
君達は帰るんだ。
いつもの教室にね

かう子 待つて リケル あなたも もしかして

リゲルが指で魔法かけると、二人が眠る

リゲル そうだよ。俺は悪魔。君達が乗り越えた悪い魔法さ
ガラ子ちゃん、セル子ちゃんこれが俺の本当に最後

ガラ子ちゃん、セル子ちゃんこれが俺の本当に最後

宣言通り、君達は僕の生きれなかつた未来を生きたまえ

リゲル、扉を開けて出ていく。その直前に、教室に魔法を掛ける

リゲル さよなら

いつもの教室にもどる

静寂

グリとモ里斯が笑いながら入ってくる

モ里斯
いやー決まったねグリ君。私達の黄金の666番
グリ
いやー決まりましたね先生。マジで隕石なんて木つ端微塵でしたよ

ノワ
いやー私、絶対に違うと思うんですけど

モ里斯
起こしちゃ悪いね。グリ君、打ち上げに行こう

モリス
グリ
ういつすういっす

ノワだけが残る。ガラ子は起きる

ガラ子
騒がしいわね…あ、ノワちゃん
ノワ
先輩、いったいどうやつて世界を救つたんですか？

セル子の顔を見て、微笑んで

ガラ子
簡単な魔法よ

簡単な魔法・完

1760

1755

1750

1745

1740

1735

1730

1725